

夏を楽しも～!!

お盆のおみやげに 「水出しアイスコーヒー」



サカキシイチロウさん。
ご存じ「ほぼ日刊糸井新聞」の毎週木曜日、おいしいコラムを書か
れている方で、人生そのものが食べることみたいなスゴイ人です。
外食コンサルタント「サカキシイチロウ」さんに、マウンテンの「水
出しアイスコーヒー」を飲んでいただきました。
以下、サカキさんのレビューです。飲み方のご参考に。

まず、小包を開けたときの印象です。
送られてきた状態はとてもかっちりとしていて、安心のできるものでした。
贅沢過ぎず、簡素過ぎず、贈り物としてとても良心的なイメージだなあ…、
と思いました。
ボトルもうつくしい。
なにより中のコーヒーの状態を余すところなくうかがうことができる
良きボトル。
冷たくしたコーヒーにありがちな、濁りがないのが、なるほど丁寧に水出し
をしたコーヒーの証と感じました。

さて、味に関してです。

まずは冷やして飲んでみようというコトで、冷蔵庫の中で24時間。
キリッと冷えた状態のモノを、そのままグラスに注いで飲みます。
印象的な味でした。
甘味やうま味が控えめで、苦味がスキッとした印象。
苦味はあるけれど渋みを感じぬ、だから飲んだ後口がとても良い。
なにより印象的なのがその酸味。
コクのある酸味とでもいいますか、かなり舌の上に長時間残る酸味が、
よりすっきり感を演出しています。

ミルクを入れて飲んでみました。
冷やしたコーヒーにそのままミルク。
するとこれが、驚くほどにおいしく変わる。
酸味がなりを潜めて、甘味に変わる。
ミルクがもっているうま味が甘味にかわるのでしょうか。
香ばしいコーヒーならではの香りも強くなります。
そのまま飲むより、もしかしたらミルクと混ぜて飲んだほうが
飲みやすいかも。
しかもオモシロイのが、ミルクをどんなに加えてもコーヒーの味が破綻しな
いところで、それだけ、コーヒー自体の味がしっかりしているんだろう…、
と思いました。

氷を入れます。
グラスにタッブリ氷を詰めて、そこにコーヒーを注いで飲む。
温度を下げれば下げるほど、酸味が強くなるのがとてもオモシロかった。
けれど香りが壊れない。
しばらくそのまま放っておくと、当然、氷がとけてコーヒーを薄めるのだけ
れど、薄まっていくに連れて徐々に苦味が甘味に変わる。
甘味に変わるというよりも、飲みやすくなるという言い方の方がいいかも
しれません。

ユックリ味わうコーヒーから、ゴクゴク飲めるコーヒーになる。
温度、濃度で味の変化がたのしめる。
とても個性的だと思いました。

もしやと思い、軽く温めて飲んでみました。
ドリップコーヒーの味がするんですネ。
とてもナツカシイ。
しかも砂糖をタッブリ混ぜると、コーヒーらしい味の輪郭。
キッチリとした苦味と酸味。
そして風味が強くなり、喫茶店のコーヒーの味に変わっていくのに
ビックリしました。

水で出す。
それはすなわち、ドリップコーヒーの味わいを温度を下げた安定させた。
そんなコトを感じました。

夏休み、美術館へ出かけよう!

とてもチャーミングな美術館「伊丹市立美術館」。
いつも夢のあるステキな企画をされています。
今月も、下記のとおり「フェリックス・ホフマン展」を開催中。
ちょうど夏休み、まさいい中。子供たちにうつくしい絵本の
世界をプレゼントしませんか。



《おおかみと七ひきのこやぎ》©Felix Hoffman



《七わのからす》©Felix Hoffman

生誕100年記念、フェリックス・ホフマン展 くうつくしい絵本の贈り物>

スイス生まれの絵本作家であり、多彩な活動を行った画家
フェリックス・ホフマン(Felix Hoffman: 1911~1975)。
故郷アールラウ市で画家活動と美術教師をしていたホフマンに
とって、絵本を描くきっかけとなったのは、第2次世界大戦中
に多くの時間を兵役で費やすなか、父親として我が子のため
にできることとして、長女に《ラプンツェル》、二女に《ねむりひ
め》、三女に《おおかみと七ひきのこやぎ》、長男に《七わの
からす》の手描き絵本を贈ったことにあります。
その後、出版された数々の絵本は世界中で親しまれ、世代を
超えて愛されています。
なかでも絵本『クリスマスのものがたり』は、日本の出版社から
の依頼により制作され、ホフマンの画風の特徴である勢いあ
る線描と美しい色彩が際立っており、キリスト誕生を描いた数
ある絵本のなかでも最も優れたものといえるでしょう。ホフマ
ンについて、絵本の作品はよく知られていますが、絵本以外
の画業についてはあまり知られていません。
生誕100年を記念とする本展では、ホフマン家のご遺族と、
世界でも有数のコレクションを誇る小さな絵本美術館(長野
県)の協力を得て、貴重な作品と資料の約250点を展示いたし
ます。
我が子に贈った貴重な手描き絵本をはじめ、日本でも馴染み
ある絵本の原画やリトグラフを紹介するとともに、『グリムの昔
話』や『スイスの伝説』などの本の挿絵、スタンドグラスの下
絵、壁画の試作なども取り上げ、ホフマンの知られざる全貌と
魅力に迫ります。

会 場…伊丹市立美術館

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2丁目5-20

期 間…2011年7月16日(土)~8月28日(日)

休 館 日…月曜日

開館時間…10:00~18:00(入館は17:30まで)

入 館 料…一般700円・大高生350円・中小生100円